

上：五番門南石垣の現状  
左：五番門南石垣測量図面

津山城跡管理道  
測量設計

現在、公園管理のための道が北側に設置されていますが、きわめて小規模なものです。

工事用の大型機械などは通行できませんし、なにより勾配が急で、日常の管理などの用途に限っても非常に危険です。

そこで、平成12年度と13年度の2年間にわたり、現在の道路を一部利用して幅員4m、延長約200mの管理道を設置する工事を行う計画です。

石垣の現状に影響を与えないこと、大きな高低差、掘削の制限など、数々の厳しい制約の中ではありますが、これらをクリアできる設計が行われました。



城跡管理道設計図面

発行年月日 平成12年3月31日  
編集・発行 津山市教育委員会  
津山城整備推進係  
〒708-8501岡山県津山市山北520  
TEL. (0868)23-2111 (内線)2752  
印刷 株式会社 廣陽本社

「津山城 資料編」刊行



史跡津山城跡保存整備事業は、平成11年度末で丸2年を経過します。この間行ってきた事業は、資料の調査をはじめ、備中櫓復元整備基本計画の策定など、今後計画されている大規模な事業の準備段階の作業でした。これらの成果が今後の保存整備事業の基礎になります。今回の「津山城だより」では、それらの事業の概要を紹介します。

## 資料調査と「津山城資料編」の刊行

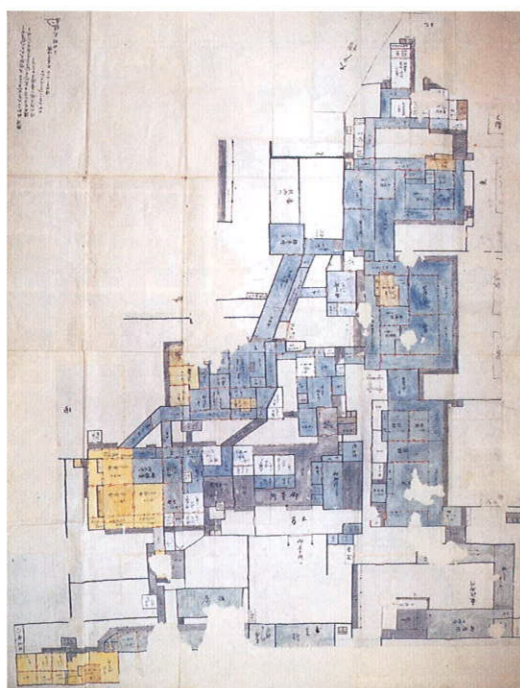
できるかぎり多くの資料と研究の蓄積がなければ、計画に具体性や説得力を持たせることはできません。

例えば、今回の事業で復元しようとしている備中櫓。その外観や内部構造はどのようになっていたのか。260年余りという長い歴史の中で、その姿や用途はどのように変化していったのか。このようなことをきちんと把握していなければ復元はできません。

そしてそれは、今そこに現物が無い以上、古文書や絵図、あるいは古写真などによってしか知ることができないのです。

同じことが他のすべての建物についても言えます。建物はどれもこれも今はもう無いものばかりなのですから。ところが、実は石垣のように今も残されているものについても、過去のある時期の姿を知ろうと思えば、やはりこういった資料をひもとかなければなりません。

そういった絵図や写真、古文書などの資料は、今までにも多数確認されていました。そこには、往時の津山城の姿を伝える記述が、情景がありました。



津山郷土博物館所蔵津山城本丸御殿絵図

しかし、それでもまだ空白の部分がかかり残っています。少しでもこの空白を埋めなければ、津山城の真の姿に迫っていくことができません。

そのため、市教委では保存整備事業に取りかかるにあたって、これらの資料の調査を最優先課題として取り組んできました。まだ知られていない資料が、空白

の部分埋める資料がおそらくまだどこかにはあるはず。調査は津山市内だけでなく、県や国の機関、津山城に関係のある地域の自治体など、できる限り広い範囲を対象として行いました。

結果、予想を上回る資料が確認されました。その中にはこれまでまったく知られていなかった絵図も含まれていました。

こうして所在を確認し、写真に納めるなどして収集してきた資料を、できるだけ広く公開して市民研究者に利用してもらうため、「津山城資料編」を刊行しました。



津山郷土博物館所蔵津山城下町絵図

残念ながら紙数の都合で掲載できなかった古文書資料や、印刷の最中に発見されて掲載に間に合わなかった絵図などもありましたが、それでも絵図資料を57点、古写真資料を12点、古文書資料を9点収録することができました。また、中でも特に記載内容が重要な絵図7点は、別に拡大図版として添付しました。

しかし、これで資料がすべて発見できたとは思えません。調査は今後も継続して行く必要があります。その過程でさらに新たな資料が発見される可能性もあります。

これらの成果は平成12年度以降も継続して刊行していく計画です。

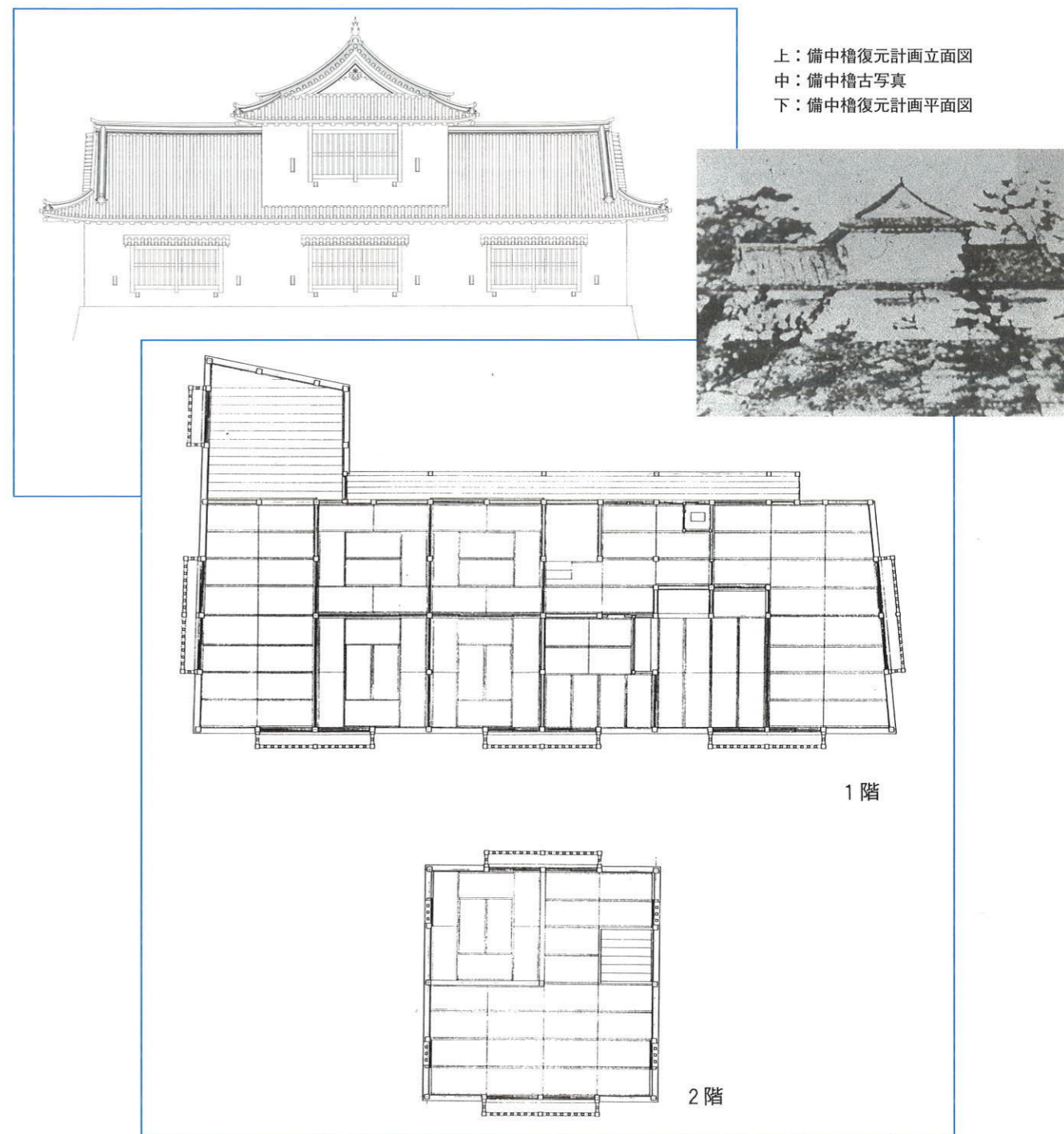
## 本丸備中櫓復元整備基本計画策定

現在取り組んでいる第1期事業（平成29年度までの20年間実施）の中で主要な位置を占めているのが、本丸備中櫓の復元整備事業です。

そこで平成11年度に、これまでに収集した資料や発掘調査の成果、他の城にある類似の建物との比較検討から導き出された基本構造などをもとに、「備中櫓復元整備基本計画」を策定しました。

今後この計画に基づいて基本設計を行い、国の承認を得たのち、復元工事に取りかかることになります。

詳しい着手時期は現段階では未定ですが、市教委では平成14年度中の着工を目指しています。



上：備中櫓復元計画立面図  
中：備中櫓古写真  
下：備中櫓復元計画平面図

## 五番門南石垣測量図化

本丸、備中櫓の西に隣接する五番門の南側石垣が大きく変形していて、崩落の危険性が指摘されています。できるだけ早く修復工事を行う必要があります。

修復にあたっては、復元が原則ですので、現在の石垣を一旦取り崩したのち、基本的に同じ石を同じ配列で組み直すことになります。

ですから、この工事の設計を行うには、個々の石の形や配列などを正確に把握したうえで、本来の石垣の形に再構築する作業が重要になります。この作業の基礎資料とするため、石垣を測量し、図面にする作業を行いました。